



平成25年12月6日

海上保安庁

流れ下る溶岩流を赤外線画像で確認 ～西之島付近の新島における火山活動～

羽田航空基地所属航空機(MA722 みずなぎ)がしょう戒中に撮影した12月4日の赤外線画像及び可視画像を分析したところ、以下のことが明らかとなった。

可視画像によると、12月1日の観測時よりさらに新島の面積が増えており(約56,000平方メートル(暫定値))、12月1日と比較して約1.5倍、11月21日に比べて約3.7倍になっている。

また、赤外線画像からは溶岩流を表す高温の領域の分布が分かり、東方向、南東方向、南西方向に流れ下る溶岩流が確認できた。南西方向への溶岩流が確認されたのは、これが初めてである。

付近航行船舶へは、引き続き航行警報により注意を呼びかけている。

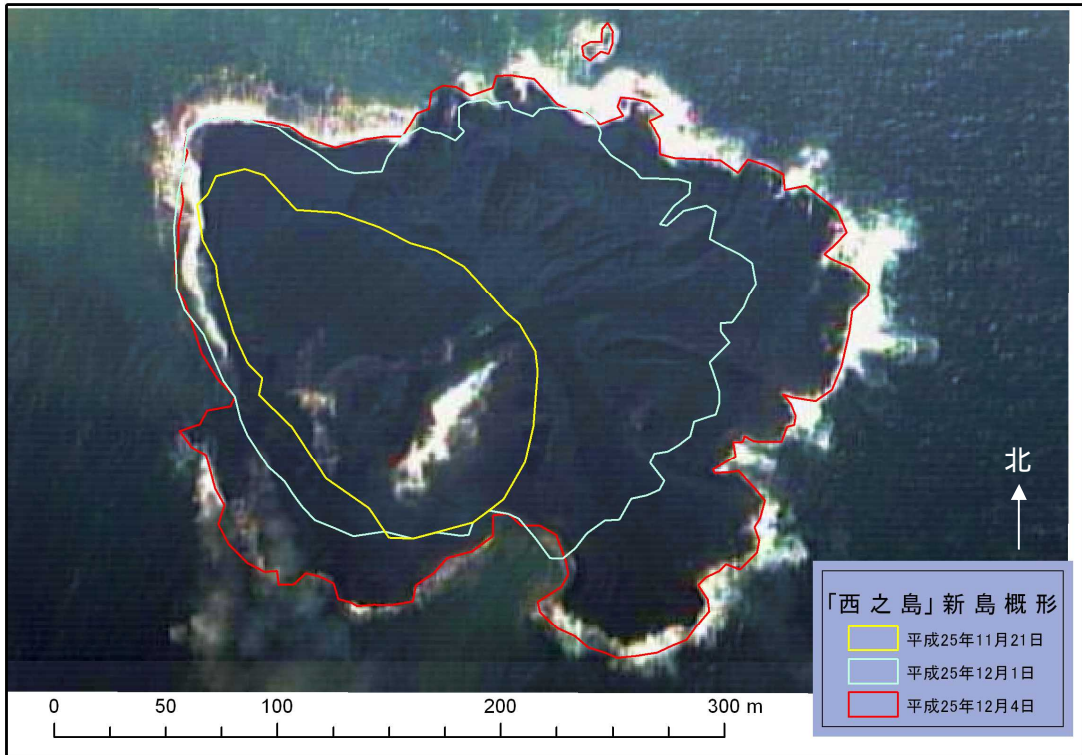
新島の形状(暫定値)

東西：約300メートル

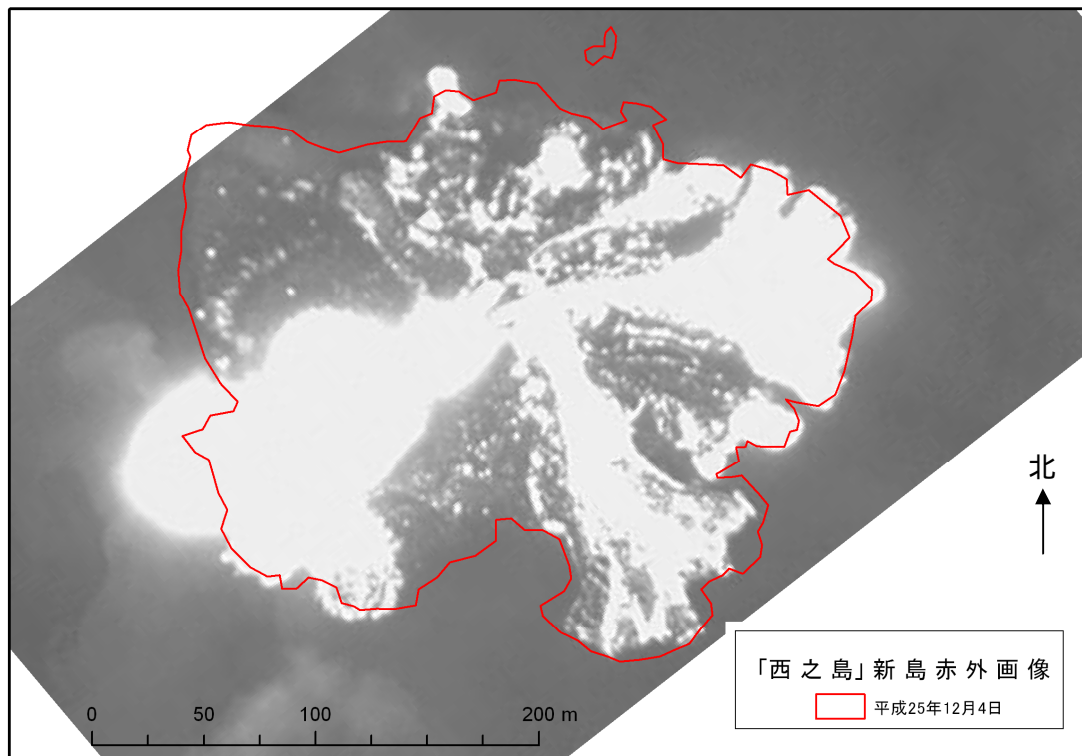
南北：約260メートル

面積：約56,000平方メートル

高さ・体積：現在のところ不明



12月4日撮影の可視画像。黄色、水色及び赤色の線は、それぞれ11月21日、12月1日及び12月4日の新島の概形を示す。島が大きくなっているのが分かる。



12月4日撮影の赤外線画像。高温域ほど白く表される。新たに南西方向に流れ下る溶岩流が確認できる。赤色の線は、12月4日の新島の概形を示す。